

科目ナンバー： 研究・CNS：MC6091

授業コード： 7030600900

講義科目名称： がん高度実践看護学実習 I

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Cancer Nursing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択 がん看護CNS必修
担当教員			
◎石田和子、樺澤三奈子、横川史穂子、石岡幸恵、坂田智佳子、杉山潤、樋口伸子、長崎揚子、三浦一二美、高池和美			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 2週間以上		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎石田 和子	新潟県立看護大学	317	kazukoi@niigata-cn.ac.jp
	樺澤 三奈子	同上	318	minako-k@niigata-cn.ac.jp
	横川 史穂子	同上	204	yokokawa@niigata-cn.ac.jp
	石岡 幸恵	同上	310	ishioka@niigata-cn.ac.jp
	坂田 智佳子	同上	共同研究室3	sakata@niigata-cn.ac.jp
	杉山 潤	同上	共同研究室3	junsugi@niigata-cn.ac.jp
	樋口 伸子	新潟県立中央病院	がん看護専門看護師	
	長崎 揚子	新潟県立がんセンター新潟病院	がん看護専門看護師	
	三浦 一二美	長岡中央総合病院	がん看護専門看護師	
	高池 和美	長野市民病院	がん看護専門看護師	
	【本学の科目区分】 専門分野			
	【DP1】	【DP2】	【DP3】	【DP4】
	研究			
	CNS	◎	○	○
	助産			

到達目標	<p>1. がん看護専門看護師としてのアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的 能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割、がん医療における地域連携の実際について、モデルの行動 と思考を通して説明できる。</p> <p>2. 看護専門職として包括的なアセスメント能力・援助方法について、倫理的判断、諸理論を活用した事例展開 が実施できる。</p> <p>3. 事例展開は包括的なアセスメントに基づき、複雑で対応の難しいがん患者や家族の様々な問題の焦点化、苦 痛の緩和、 日常生活の回復や適応促進のため、理論を活用して 質の高い直接ケアを実施することができる。</p>
------	---

授業概要	がん看護専門看護師の指導のもとに、実際のがん看護専門看護師の活動を見学し、専門職としての実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の役割を理解し、自己の適性を高める。また、複雑で対応の難しいがん患者や家族の様々な問題を捉え、苦痛の緩和、日常生活の再構築を促進するために、既習および患者の問題解決に必要とされる看護理論を適応し、個別性を重視し、包括的なアセスメントに基づいて看護を展開する。
------	--

授業計画	<p>2週間以上 授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学修課題：1. 専門看護師としての6つの役割を理解する。 2. 複雑で対応の難しい臨床事例を取り、看護過程を展開する。 3. 実習施設におけるがん医療に関する地域連携の実際を理解する。また、それに関わる看護の役割を検討する</p> <p>学修内容：1. 専門看護師としての実践、調整、コンサルテーションを見学する。 2. ケアの質向上を目指した様々な教育活動、研究活動の実際を見学する。 3. 倫理的な問題の解決に向けて専門看護師が果たす役割の実際を見学する。 4. がん患者に生じている問題について、専門的知識をもとに情報を整理し、問題を焦点化する。 5. 複雑で対応の難しい臨床事例を取り、理論を用いて介入を行う。 6. 一連の看護過程の展開を行い、専門性の高い看護実践の評価を行う。 7. 実習施設における地域連携・相談支援センターの見学を通して「がん医療における地域連携と看護の役割について」のレポートを作成する。</p> <p>【臨床での実習時間】2週間以上（90時間）</p>
------	--

	<p>【実習場所】 新潟県立中央病院 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡中央総合病院 長野市民病院</p> <p>【実習方法】 ・4～5日／週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・役割について判断した内容について、実習指導者からスーパーバイズを受ける。 ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。</p> <p>事前学修：・専門看護師としての役割と看護実践に関わる既修の科目を復習する。 (特に病態生理学、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、看護理論、がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ、がん看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ)</p> <p>事後学修：・実習での学びについてカンファレンスでの助言をもとに文献を活用して疑問の解決を図る。</p> <p>備考：石田 樺澤 横川</p>
事前・事後学習	授業計画参照
評価方法、評価基準	<p>1. 評価対象（得点配分） 到達目標1～3に対し、以下の得点配分により総合的に評価する。 ・目標達成度(40%) ・記録、レポート・課題分析能力(20%) ・カンファレンスでのプレゼンテーション(30%) ・実習準備、実習態度(10%)</p> <p>2. 評価方法 自己評価および実習指導者からの他者評価を総合した各実習評価表に基づき履修生と面接を行い、目標達成度、記録とレポート・課題分析能力、実習準備・実習態度について、評価基準をもとに評価する。</p> <p>3. 評価基準 実習要項に掲載した各評価基準に基づく。評定は、A(90点以上100点)・B(80点以上～90点未満)・C(70点以上～80点未満)・D(60点以上70点未満)・F(60点未満)の5段階である。</p>
テキスト	最新の文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する。
参考図書・資料等	必要時提示する。
受講、課題、資料配布等のルール	詳細については実習要項を参照する。 がん看護専門看護師コースに必要な講義および演習の単位を取得できていない者は履修できない（演習Ⅲおよび課題研究は除く）。 長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。
教員からのメッセージ	主体的な自己学修を期待する。
オフィスアワー	石田、樺澤、横川が窓口となり対応する。事前にメールで連絡する。